UI ターン就職後のまちづくり参加とライフキャリア形成に資するための学生参加型事例研究の取り組み

相場 毅正[1]

Case Study on Student Participation in Local Community and Life Career Development for Those Intend to Return to Work in their Hometowns

AIBA Takemasa

1. はじめに

大学の間は都内等で過ごしたがその後地元に戻る、うっすら地元志向の学生が多い。地元（U ターン含む）就職を希望する学生の割合は 62.6%である。

UI ターンを仮定したまちづくり参加について、共同研究のための学生募集を行ったところ、6 名の参加があった。参加学生はまちづくり参加の意思があるが、実際に地元に帰った際に、どのようにまちづくりに関わればよいのかが分からない。そこで、地元等へ UI ターンし地域で活躍している先駆者の活動事例を研究する機会を作る。単にまちづくり参加の手法論を学ぶものではなく、地域でのライフキャリアという広い視点で学生の参考となる事例を選定する。

筆者や事例提供者は、大学を卒業して地元に帰った際、同じくまちづくりへの関わり方が分からず紆余曲折、手探りで約 20 年経ってやっと軌道に乗ったものや、いまだに出来ないこともある。今後、少子高齢化など待ったなしの課題を抱える地域社会に対して、若者がまちづくりに参加するまでのスピードを上げたい。そのために、学生のうちからイメージしトレーニングする場を創る。近い将来卒業し地元等に帰った際、動き出すだめの下地を育む。好例だけでなく失敗についても学び、地域で壁にあたった際の対処について、ケーススタディの蓄積から引き出しを持ってもらう。この事例研究プロジェクトでの学びを経た学生がそれぞれのフィールドで地域活性化に資する人材となることを目的とする。2023 年 10 月にキックオフし、2024 年度までの 2 年を期間とする学生参加プロジェクトであり、今回は 2023 年度の取り組み経過と、2024 年度に向けた展望と課題を記載する中間報告である。

---

[1] 昭和女子大学現代ビジネス研究所 研究員

2.　プログラムについて

1.REPORT 佐世保

本プロジェクトのメインの調査対象であり、2024 年度の夏季休暇期間に、学生と共に現地を訪れ実地調査を行う。

地域を活性化させるのは、地元愛に満ち、まちづくりの理想に燃え、やる気とリーダシップがある人材だ、というのはステレオタイプである。大好きというわけではないが、実家があって家族もいるためなんとなく U ターン。長崎県佐世保市役所の中尾大樹さんもその 1 人である。都内の大学を卒業後、仕方なく地元へ戻り、なんとかキャリアライフの充実を目指し、自治体職員の傍らで一般社団法人「REPORT 佐世保」を設立し、理事として仲間とカフェ経営、イベント企画、まちづくり支援、マッチング活動等を実施、運営している。佐世保の価値を「リポート」して可視化することをミッションとし、自分たちの居場所を創った。そのプロセスや思い、実際の取組手法を学ぶ。

地方への UI ターンというテーマがあり、参加学生の志望先は地方自治体や地方銀行が実際に上がった。筆者含め、本業との兼ね合いで職務専念や兼業禁止の基本規定がある中で、何をどこまでやってよいか分からずに、思いどおりに地域ビジネス等へ関わることが出来ない状況を見るが、中尾さんはクリアしている特徴的な事例であり、その点も選定理由の 1 つとなった。

筆者単独での先行調査として、2023 年 11 月 4 日に佐世保市内で中尾さんらによって開催された「佐世保 NEO 朝市」等の事例を視察、研究した。

もともとの事業者市民である、魚を売るおじちゃんなどが定例的な生業としている朝市に、若者が面白がって参画し一緒にやっている取組。ローカル YouTuber 等との異種の融合も発生。もしこの機会がなければ、お互いに交わることがない地域人材同士の協働である。一緒にやるために、まず先人のガードを解いたプロセスなどを聴いた。これから人が減ってくる局面では特に、世代間や異種の交流等が尊い価値となる。学生が学び取りたいことの 1 つに「コミュニケーション能力」が上げられているため、よい題材となる。中尾さんをはじめ、取り組みに関わるステークホルダーの分析やインタビュー、実際に訪問する先やルート等について、先行調査を踏まえて、受け入れ先とも協議し選定中である。

また、もともとの事業者の中で、市場での売上がないケースもあったが、NEO 朝市の新規客層によって経済的な効果も発生している。学生には「やったことは何か」という事実をまず確認し、経済的な評価、社会的な評価等も意識してもらう。

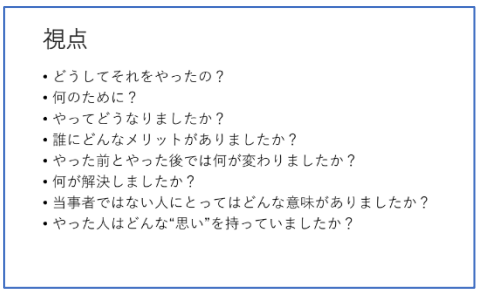
写真 1,2,3　先行調査 佐世保 NEO 朝市の様子。2 は参画する地元の大学生

2.事例比較等の事前学習

REPORT 佐世保の事例だけでなく、いくつかの事例を事前に研究し、共通点、相違点の発見や、基本的な視点の整理を行う。

参加学生へのアンケートや対面での聞き取りにて、学生である今身に付けたいことで複数上がった項目は「コミュニケーション能力」「柔軟性」「協調性」「行動力」「人脈づくり」「介入するときに気を付けること」「課題に対するアプローチ」等である。それらを、事例提供のゲストスピーカーには事前に共有した。

実施済みのものとして、2024 年 1 月 27 日に、昭和女子大学 10 号館教室にて、兵庫県豊岡市役所の山川正朝さんを招き、竹野浜地区での自身のまちづくり参加における公私両面からの実践等について、事例提供をいただいた。山川さんからは、まちづくりは誰がやってもよく、スタンスや立場も多様であってよいことや、必要とされていることは何か、何をしたいか、何ができるか、誰のために、誰とやるかなどの視点が語られた。「地方の人付き合い」「地方での活動の特徴」「都市と地方の関わり方」といったテーマもあり、学生が習得したいことに応える内容となった。



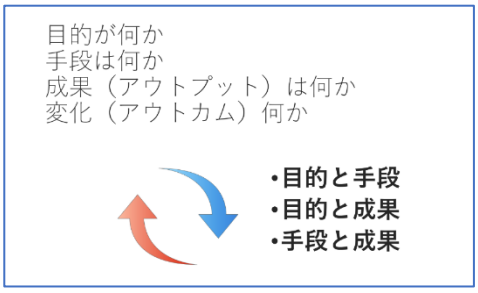


写真 4　昭和女子大学にて、山川正朝さんによる事例提供の様子

図 1,2　初回導入にて、筆者が学生に提起した「事例を見る際のポイント」の一部

3.プログラムの現在までの経過と今後の予定

2023 年 10 月 27 日　オンライン　初回ミーティング
2023 年 11 月 4 日　佐世保市へ先行訪問し「ネオ朝市」等の実地調査
2024 年 1 月 27 日　教室　ゲストスピーカー事例提供　兵庫県豊岡市　山川正朝さん
2024 年 3 月 21 日　教室　ゲストスピーカー事例提供　北海道白老町　貳又聖規さん
2024 年 4 月　教室　ゲストスピーカー事例提供　群馬県　宮下智さん
2024 年 5 月　実地　筆者の事例提供　群馬県太田市　地域資源の活用(ﾊﾞﾗ園)
2024 年夏季休暇中　教室　事前レクチャー　長崎県佐世保市　中尾大樹さん
2024 年夏季休暇中　佐世保市へ訪問し「REPORT 佐世保」等の実地調査

3.　今後の展望と課題

2.で記載のとおり 2024 年度夏季休暇の時期を利用し、学生と共に佐世保市を訪問して教室では得られなかった現場感、実践のための手触り感を得る。そのために、現地での訪問先やプログラムについて、現地の中尾さんなどと協議して調整を進める。

「事例を学ぶ」ではなく「事例で学ぶ」

傍観的に事例を見学することや、事例の真似をするためのものではない。手法論を学習し、ベストプラクティスに感心するための場でもない。個々の地域の実情や、参加学生自身の自己実現のために「自分の場合はこれをやる」そのための学習であるという自分ごと化のスイッチを入れるために「あなたのまちづくり参加プラン プロジェクトシート」を各学生が作成する。1 回目の作成は終え、これから事例学習で得た視点を踏まえて書き直しを行い、2024 年度の本プロジェクト終了時には、メンバー、担当教授や関わった事例提供者等の前で 1 人ずつ発表を行う。

「UI ターンをしたいか」「まちづくりに積極的に参加したいか」「地域のまちづくり参加について既に知っていること、まだ知らないので知りたいこと、不安なこと」「UI ターン先で実現したいこと」「参加のために学生のうちに身に付けたいこと」等をアンケートで質問したが、参加の 6 名中心で留まっているため、学内アンケート等の手段で母数を増やしたい。

学生の熱量に温度差があり、主体的でない学生もいるため、学生同士で調整できる部分は依頼するなどして主体性を引き出したい。

事例提供者について、女性の確保のために打診したが、都合が合わず男性に偏ってしまった。引き続き調整する。学生には、まちづくり参加は男女関わらず行えることを説明。昭和女子大生ならではの提案もぜひして欲しいと求めた。業種についても、筆者と同業である自治体職員が多くなってしまったが、公務員的まちづくりを指南する意図はないため多業種を意識する。打診する際に、比較的寛容な同業者と異なり、民間事業者の 1 人とは講師謝礼の話になった際に決裂してしまった。各種助成等の研究も行い経費確保を探る。

2024 年度その先の展望として、活動を継続的に続け、MBA（ビジネススクール）の「ケースメソッド」手法の、まちづくり版というイメージで事例提供・研究活動を行い、学生とまちづくり人材のプラットフォーム的なものが創れたら理想と考えている。

4.　まとめ（中間）

学生：地元等に戻った時のまちづくり参加とライフキャリア形成のための学習を行う

筆者：上記のためのメソッドづくりと研究継続

事例提供者：まちづくり人材育成のための貢献、情報提供とそれによる認知度向上

上記目的のために相互理解を図り、3 者にとって有益な活動を進める。

＜参考文献＞

・2024 年卒大学生 U ターン・地元就職に関する調査
https://career-research.mynavi.jp/reserch/20230509_50051/
2024.2 マイナビキャリアリサーチ Lab 内検索
・長崎だより 2021.10 十八親和銀行 古瀬 著
https://www.fukuoka-fg.com/data_report/202110/nagasaki.pdf?fbclid=IwAR24Vm7SefXyiAulInwlmNH6t6tKiTlqSr_neKwtHjJZH0O-6X7RMtftJRY
2024.2 FFG 調査月報内検索
・水野由香里、黒岩健一郎(2022)「ケースメソッドの教科書」